

編集：渡辺晋一・岩崎泰政・葛西健一郎

# 皮膚レーザー治療プロフェッショナル プロから学ぶ正しい知識と手技

書評者：門野岳史(東京大学医学部皮膚科)

本書では皮膚レーザー治療の適応と効果、およびその限界とが詳細かつ明快に記されている。皮膚レーザー治療機もこのように数が増えてくると、各々の機械の特徴や効果の違いが段々よくわからなくなってくる。どの機種もあたかも魔法の機械のような謳い文句で販売されているが、一方で若干の胡散臭さを感じるのもまた事実である。本書は日本のレーザー治療の草分けであり、基礎実験の段階からレーザー治療に深く関わってきた渡辺晋一先生によって編集され、渡辺先生を含むごく少数の精鋭によって記されている。著者の人数が少なく厳選されているため、全体としての統一感が取れており、共通のコンセプトが本書全体を通じて一貫として流れている。

編者がいみじくも述べたとおり、レーザー治療はメーカー先行になりやすく、ともすれば先方の宣伝文句を鵜呑みにしがちである。しかしながら、レーザー治療に関しても数多の文献があり、それらの文献から得られる正しい情報とエビデンスに基づいてレーザー治療にあたるべきであるということを痛感させられる。本書ではまず、レーザーの機種およびその作用機序について詳細に記されている。レーザーの原理は確かに取っ付きにくいものであるが、多少物理が門外漢であっても理解できるよう丁寧に説明がなされている。レーザーの作用機序に関しては今までは何となくわかったつも

りでやり過ぎていたが、やはりレーザー機種の全体像および作用機序を根本から把握することは、付け焼き刃的で表層的な知識でごまかすのとは全く異なるということが改めて認識される。

次に本書は治療の実際に移る。血管性病変、色素沈着症、腫瘍性病変、美容形成といった各種疾患に対する治療効果とその限界とが、豊富な臨床写真、組織写真とともに明快に記されている。レーザーに関する書物でここまで組織写真が多く組み込まれているものはあまり例がなく、実際のレーザー照射が生体にどのような影響をもたらすのかについて実感することができる。そしてさまざまな疾患に対して、どのような場合が適応になるか、照射量はどれくらいが適当か、治療後のダウンタイムや効果の出方の経過はどのようなになっているのか、治療はいつまで続けるべきなのか、またどこまで効果が期待できるのかなど、皮膚レーザー診療にあたったものなら誰でも疑問に思うことや知りたかったと思うようなことが網羅されている。殊に色素沈着症に関しては疾患概念が混乱していたり、誤解されたりしていることがきわめて多い。肝斑の診断にまつわる誤診と、誤った診断に基づくと考えられる不正確な論文の数々はその代表例であろう。各々の色素沈着症に関する診断の問題点とそれにまつわる治療法の誤りについて微に入り細にわたる解説がなされており、自省の念を込めて本書を読

むことにより今一度種々の色素沈着症についての疾患概念を再確認することをお勧めする。

本書で特筆すべきは豊富にちりばめられたコラムであり、普段から疑問に思っていること、治療のコツ、通常の論文では決して記されないようなことなどさまざまな有益な情報が得ることができる。例えば、先天性色素性母斑に対してレーザー治療を行うべきかどうか、日本が諸外国と比べて皮膚科治療が決して進んでいるとはいえないこと、レーザー脱毛のノウハウやエステティックサロンの問題点などなど、まさに普段から知りたかったと思っていたようなことが次々とコラムに登場し、各々の執筆者の本音が明快かつ論理的に記されている。こうした執筆者の本音は、豊富な経験に裏打ちされた第一線の臨床家であればこそ明言できるような類いのものであり、自分が全く気付いていなかったこと、また薄々は感じていたものの自信がないため自らの口からははっきり言えなかったことなどが痛快に記されている。読み物としても秀逸であるし、レーザー治療を行うにあたっての教科書あるいは治療マニュアルとしてもきわめて有用である。本書は正に今後の皮膚レーザーの治療に必携の書であることを確信し、ここに強く一読を勧めたい。

● B5 頁260 2013年  
定価：本体 12,000 円＋税  
[ISBN 978-4-524-26385-1]  
南江堂刊